国際社会学部

足立享祐

Kyosuke ADACHI
地域社会研究コース／南アジア地域
南アジア地域研究・歴史学

近現代南アジア（インド･ヒンディー語圏）とは

専門はインド（南アジア）地域研究・歴史学です。近代インドにおける言語の社会史を主な研究対象としてきました。近代南アジアは、植民地主義の影響を受け、英語を頂点とする言語的な階層が形成されていきます。植民地的環境において英語は社会的上昇において必要不可欠となりますが、その恩恵に浴することが出来るのはごく一部の限られた階層に過ぎませんでした。「ヒンディー語」は中世期以来の伝統を受け継ぎながら、インドのリングワ・フランカ（共通言語）として、より広い階層の人々の思想・文化を表現する媒体としての地位を確立する運動が進められてきました。現在、ヒンディー語は国内最大の母語話者を擁する言語であり、インド憲法では「連邦公用語」として定められています。

研究紹介

近現代の南アジア社会を「ことば」の問題に着目して研究を行って。これまで近代インド諸語における標準文法の確立、辞典の編纂、文化翻訳といった点について議論してきました。また資料への関心から、南アジア研究・日印関係に関わるサブジェクト・ライブラリアンとしても研究を行ってきました。

近年はインド諸語で書かれたインド社会論、特にカーストに関する史資料群の研究に取り組んでいます。近代においては「カースト」がインド社会論の中心に置かれますが、神話的歴史叙述や系譜学、職分に関する権利文書などの形を取ったインド諸語で書かれた言説を分析することで、地域社会からの植民地主義への応答を明らかにしようとしています。

また現在はヒンディー語専攻所属の教員として、ヒンディー語の教材開発（『大学のヒンディー語』）に取り組んでいます。これに関連して、ヒンディー語映画の解説などをすることもあります。

担当授業

【地域科目】
- 南アジア地域基礎
  —近代南アジア研究入門—
  —現代インド研究入門—
- 地域社会研究入門
  —地域社会とSDGs—
- 南アジア地域研究
  ー分離独立の歴史と記憶ー
  ーカースト研究の過去と現在ー
- 南アジア地域専門演習（ゼミ）

【言語科目】
- ヒンディー語初級文法（専攻言語）
- 時事ヒンディー語（専攻言語）
- 近現代ヒンディー文学（専攻言語）
- マラーティー語の世界を知る

関連する分野

- 歴史学
- 社会学
- 言語学

出版物

- 『明治･対象･昭和期 南アジア研究雑誌記事索引』, 東京外国語大学史資料ハブ地域文化研究拠点, 2006.
- 『報道記者たちのアジア』, 東京外国語大学史資料ハブ地域文化研究拠点, (CD-ROM)
- 『大学のヒンディー語』（近刊）

国際社会学部

南アジア
歴史社会論ゼミ

所属ゼミ生の中央ヒンディー語学院デリー校（Kendriya Hindi Sanstan, Delhi）留学

どのようなゼミか

ゼミではインド近現代史・インド社会論を中心に、広く「南アジア研究」に関わる分野について、個別テーマに沿った指導を行います。ヒンディー語専攻・ウルドウー語専攻・ベンガル語専攻をはじめとする、南アジア地域研究を志す全ての学生にゼミの扉が開かれています。卒業研究では、現代南アジア社会の諸課題に対する共時的な視点、その歴史的な形成に対する通時的な視点、これら双方から南アジア地域の文化・社会の諸事象を明らかにしていきます。

ゼミ生は南アジアの歴史と社会に関わる事象について、図書館・文書館・フィールドワークなど、資料調査に基づいた研究に取り組みます。

三年生の専門演習では、「インド（南アジア）社会論」を中心に歴史(学)と社会(学)の連関を考察します。研究史の視点から「南アジア地域研究」に対するアプローチを再考しつつ、アカデミックな論文を読みこなす力を身につけていきます。２０２３年度、ゼミ生は以下のテーマに共同で取り組みます。

- 近現代南アジア研究(1)―インド社会論と歴史学の射程―
- 近現代南アジア研究(2)―インド系移民・市民と多文化社会―

四年次の卒論演習では、先行文献の悉皆調査、テーマ・仮説の設定、資料に基づいた説得力ある議論の構築を行いながら、学生生活の集大成である卒業論文を執筆します。特に「一次資料」を用いて研究目標を実証的に明らかにすることが重視されています。また他のゼミ生と共にそれぞれの報告について意見を出し合いながら、よりよい論文を目指していって欲しいと考えています。

卒論

- コミュナル暴動における残虐行為の変数－1989年のバーガルプル暴動を事例に－（政治学）
- アヒンサー論再考－B.R.アンベードカルの視点から－（インド思想研究・歴史学）
- 高級娼婦の芸と性（ジェンダー・セクシュアリティ研究）
- マンヌー・バンダーリーの短編小説『私は負けてしまった』における諷刺の解釈について（文学研究）

おススメの本

- A.セン（東郷えりか訳）『アマルティヤ・セン回顧録』, 勁草書房、2023.
- M.K.ガーンディー（田中敏雄訳）『ガーンディー自叙伝　真理へと近づくさまざまな実験』,東洋文庫, 2000.

（地域社会研究コース　足立享祐ゼミ）　2021年入学・ゼミ所属学生

「ことば」を切り口に、近現代においてインドが歩んできた軌跡を辿る研究をされている足立先生によるゼミです。

地域研究というと一見、マニアックで取っ付きにくい印象もありますが、歴史・宗教・メディア・経済など守備範囲の広さと「褒めて伸ばす」方針のもと穏やかで学生に寄り添う指導のお陰で、ゼミ生各自の関心に合わせて自由に研究ができる環境が整っています。互いを尊重し合う雰囲気があり、研究内容や研究方法を否定することなく、アドバイスをしながら前向きに伸ばしていけるため、意欲高く取り組むことが出来ます。また、卒業論文の発表などを通して学年間でも交流することができ、就職活動や研究についても情報共有する機会も得られます。南アジア地域に関心を寄せている方ならどんな観点からでも、このゼミなら興味深い研究に育てていけると確信しています。

ぜひ、これからの社会において益々影響力を増す南アジア地域を共に紐解いていきましょう！